

## 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名): タセト シルバー A (エアゾール)  
供給者の会社名称: 株式会社タセト  
住所: 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1  
担当部門: 化学品技術グループ  
電話番号: 0466-29-5638  
FAX 番号: 0466-29-5630  
緊急連絡先及び電話番号: 同上  
推奨用途及び使用上の制限: 溶接構造物の開先防錆剤

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類  
物理化学的危険性 エアゾール 区分1  
健康に対する有害性 急性毒性(経口) 分類できない  
急性毒性(経皮) 分類できない  
急性毒性(吸入:気体) 分類できない  
急性毒性(吸入:蒸気) 区分4  
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト) 分類できない  
皮膚腐食性/皮膚刺激性 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A  
呼吸器感作性 分類できない  
皮膚感作性 分類できない  
生殖細胞変異原性 分類できない  
発がん性 区分2  
生殖毒性 区分1A  
生殖毒性・授乳に対する  
又は授乳を介した影響 追加区分  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系)  
区分2(呼吸器系、腎臓、肝臓、視覚器、全身毒性)  
区分3(麻酔作用)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(神経系、腎臓、肝臓)  
区分2(呼吸器、視覚器)  
誤えん有害性 区分に該当しない  
環境に対する有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分2  
水生環境有害性 長期(慢性) 区分3  
オゾン層への有害性 分類できない

GHS ラベル要素  
絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール  
高压容器:熱すると破裂のおそれ  
吸入すると有害(蒸気)  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
発がんのおそれの疑い

		生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
		授乳中の子に害を及ぼすおそれ
		中枢神経系の障害
		臓器(呼吸器系、腎臓、肝臓、視覚器、全身毒性)の障害のおそれ
		眠気又はめまいのおそれ
		長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(神経系、腎臓、肝臓)の障害
		長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器、視覚器)の障害のおそれ
		水生生物に毒性
		長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き:	【安全対策】	使用前に取扱説明書(カタログ等)を入手すること。 全ての安全注意(本SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 妊娠中/授乳期中は接触を避けること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 必要などき以外は、環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
	【応急措置】	飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。 皮膚に付着した場合:多量の水/石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。
	【保管】	子供の手の届かないところに置くこと。 換気の良い場所で保管すること。 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
	【廃棄】	内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って産業廃棄物として処理すること。

### 3. 組成及び成分情報

- ・ 化学物質・混合物の区別 : 混合物
- ・ 成分及び含有量:

成分番号	内 容 成 分 〔化学名又は一般名〕	濃度(wt%)	CAS No.	官報公示 整理番号	PRTR 法 <sup>1)</sup> 管理番号	安衛法 通知物質番号 <sup>2)</sup>
1	アルキド樹脂	10~20	非公開	非公開	非該当	非該当
2	キシレン	7.3	1330-20-7	(3)-3	80	136
3	エチルベンゼン	7.3	100-41-4	(3)-28	53	70
4	トルエン	18	108-88-3	(3)-2	300	407
5	メタノール	1~5	67-56-1	(2)-201	非該当	560
6	イソブチルアルコール	1~5	78-83-1	(2)-3049	非該当	477
7	酢酸エチル	3~8	141-78-6	(2)-726	非該当	177

8	酢酸イソブチル	3~8	110-19-0	(2)-731	非該当	181
9	エチレングリコールモノメチルエーテル	<1	111-76-2	(2)-407	(594)	79
10	噴射剤:ジメチルエーテル(DME)	35~45	115-10-6	(2)-360	非該当	非該当

I) 化学物質排出把握管理促進法 : 該当 3 成分

II) 労働安全衛生法 57 条の 2 通知対象物質 : 該当 8 成分

#### 4. 応急処置

吸入した場合:	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい体勢で休息させること。 医師の診察、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合:	気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。 直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察、手当てを受けること。 医師の診察、手当てを受けること。
眼に入った場合:	汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。 水で数分間、注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受けること。 医師の診察、手当てを受けること。
飲み込んだ場合:	口をすすぐこと。 この液体は肺に入ると化学性肺炎の危険が増すので、吐き出させてはならない。 医師の診察、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状 の最も重要な徴候症状:	吸入した場合: 咳、めまい、し眠、頭痛。 皮膚に接触した場合: 皮膚の乾燥、発赤。 眼に入った場合: 発赤、痛み、かすみ眼。 飲み込んだ場合: 咳、めまい、し眠、頭痛。
応急措置をする者の保護に 必要な注意事項:	火気に注意する。 有機溶剤用の防毒マスクがあればそれを着用する。
医師に対する特別な注意事項:	安静に保ち、医学的な経過観察が必要である。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	小火災:	二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤
	大火災:	散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤:		棒状注水 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
火災時の特有の危険有害性:		熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法:		引火点が極めて低い。 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具  
及び予防措置:

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置:

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、  
眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
適切な防護衣を着けていないときは、破損した容器あるいは漏洩物に触れてははいけない。  
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。  
風上に留まる。低地から離れる。密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項:

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
環境中に放出してはならない。

封じ込め、浄化の方法及び機材:

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。  
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。  
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑える事ができないおそれがある。  
危険でなければ漏れを止める。  
漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策:

全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策:  
局所排気・全体換気:  
安全取扱注意事項:

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。  
眼に入れないこと。  
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。  
ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。

接触回避:

「10. 安定性及び反応性」を参照

衛生対策:

取扱い後は手洗い、うがい等を行うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
濡れた衣類は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。  
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

保管 技術的対策:

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。  
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。  
保管場所の床は、床面に水が浸入、又は浸透しない構造とすること。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の

安全な保管条件:	<p>設備を設ける。</p> <p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。</p> <p>酸化剤から離して保管する。</p> <p>容器は直射日光や火気を避けること。</p> <p>容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。</p> <p>可能であれば施錠して保管すること。</p> <p>指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。</p> <p>容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂する事がある。</p>
安全な容器包装材料:	<p>消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>

## 8. ばく露防止及び保護措置

成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	管理濃度 〔ppm〕	許容濃度〔ppm〕	
			日本産業衛生学会 (2015年版)	ACGIH (TLV-TWA) (2015年版)
1	アルキド樹脂	—	—	—
2	キシレン	50	50	100
3	エチルベンゼン	20	50	20
4	トルエン	20	50	20
5	メタノール	200	200	200
6	イソブチルアルコール	50	50	50
7	酢酸エチル	200	200	400
8	酢酸イソブチル	150	設定されていない	150
9	エチレングリコールモノメチルエーテル	25	設定されていない	20
10	ジメチルエーテル(DME)	設定されていない	設定されていない	設定されていない

設備対策:	<p>蒸気の発生源や取扱作業場所には密閉系設備又は局所排気装置を設けること。</p> <p>防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。</p> <p>静電気放電に対する措置を講ずること。</p> <p>この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
保護具	<p>呼吸用保護具: 適切な呼吸器保護具(防毒マスク(有機ガス用)、高濃度の場合、送気マスク・空気呼吸器等)を着用すること。</p> <p>手の保護具: 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。</p> <p>眼、顔面の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること(保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型))。</p> <p>皮膚及び身体の保護具: 保護長靴、耐油性(不浸透性・静電気防止対策用)前掛け、防護服(静電気防止対策用)等の保護具を着用すること。</p>

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	黄橙透明液体	
臭い:	溶剤臭	
融点/凝固点:	-82℃以下	(シンナーとしての推定値)
沸点又は初留点及び沸点範囲:	65~117℃	(シンナーとしての推定値)
可燃性:	可燃性液体	
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界:	下限 1.1 vol%、上限 36.5 vol%	(シンナーとしての推定値)
引火点:	-10℃ (タグ密閉)	(シンナーとしての推定値)
自然発火点:	415℃以上	(シンナーとしての推定値)
分解温度:	データなし	
pH:	データなし	
溶解度:	[水]水に溶解する成分を含有する。 [他]有機溶剤に溶解する。	

(成分番号4から9をまとめて シンナー と表記)

n-オクタノール／水分配係数(log 値):	データなし	
蒸気圧:	12,700 Pa (20°C)	(シンナーとしての推定値)
密度及び／又は相対密度:	0.92	(シンナーとしての推定値)
相対ガス密度(空気=1):	3.1	(シンナーとしての推定値)
粒子特性:	データなし	

「噴射剤」 DME		
物理的状態、形状、色など:	ガス状無色透明	
臭い:	やや甘味臭	
融点／凝固点:	-141.5°C	
沸点又は初留点及び沸点範囲:	-24.82°C	
可燃性:	可燃性ガス	
爆発下限界及び爆発上限界 ／可燃限界:	下限 3.4 vol%、上限 27.0 vol%	
引火点:	-41.1°C	
自然発火点:	350°C	
分解温度:	データなし	
pH :	データなし	
動粘性率:	データなし	
溶解度:	溶解度(水) 70 g/l (18°C)	
n-オクタノール／水分配係数(log 値):	0.2	
蒸気圧:	3800 mmHg (507 kPa)(20.8°C)	
密度及び／又は相対密度:	データなし	
相対ガス密度(空気=1):	1.59	
粒子特性:	データなし	

## 10. 安定性及び反応性

反応性:	通常の取扱いにおいては安定である。
化学的安定性:	通常の取扱いにおいては安定である。 加熱により発火する。 流動、攪拌等により、静電気が発生することがある。
危険有害反応可能性:	強酸化剤と厳しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件:	加熱、高温
混触危険物質:	強酸化剤、強酸、強アルカリ
危険有害な分解生成物:	加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素等を生じる。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口):	国連 GHS 分類では区分 5 に該当するが、対象国(日本)危険有害性区分補正処理により、区分 5 から区分に該当しないとされた。しかし、毒性が未知の成分が含まれているため、分類できないとした。
急性毒性(経皮):	データ不足のため、分類できない。
急性毒性(吸入:気体):	ジメチルエーテル: ラット LC <sub>50</sub> 164,000 ppm (4 時間) DFGOT (vol.1, 1991)
急性毒性(吸入:蒸気):	急性毒性推定値(ATEmix)が>10 mg/L であり、20 mg/L 以下のため、区分 4 とした。
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト)	有用な情報がなく分類できない。
皮膚腐食性／刺激性:	区分 2 の成分が 10%以上のため、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:	区分 2A 及び 2B の成分の合計が 10%以上のため、区分 2A とした。
呼吸器感受性:	有用な情報がなく分類できない。
皮膚感受性:	有用な情報がなく分類できない。
生殖細胞変異原性:	有用な情報がなく分類できない。
発がん性:	区分 2 の成分が 1.0%以上のため、区分 2 とした。
生殖毒性:	区分 1A の成分が 0.3%以上のため、区分 1A とした。

生殖毒性・授乳に対する  
 又は授乳を介した影響:  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露):  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露):  
 誤えん有害性:

追加区分物質である「トルエン」の濃度が0.3%以上のため、追加区分とした。

区分1 中枢神経系  
 区分2 呼吸器系、腎臓、肝臓、視覚器、全身毒性  
 区分3 麻酔作用  
 区分3(気道刺激性)と区分2(呼吸器)を区分2(呼吸器系)に統合。

区分1 神経系、腎臓、肝臓  
 区分2 呼吸器、視覚器  
 区分1(中枢神経系)を区分1(神経系)に統合。

区分に該当しない エアゾールはミストの状態では噴霧されるので、通常は該当しないため、区分に該当しないとした。

○各成分の健康有害性情報

成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	急性毒性				
		経口	経皮	吸入 (気体)	吸入 (蒸気)	吸入 (粉じん、ミスト)
1	アルキド樹脂	分類できない	分類できない	区分に該当しない (分類対象外)	分類できない	分類できない
2	キシレン	区分5	分類できない	区分に該当しない (分類対象外)	区分に該当しない	分類できない
3	エチルベンゼン	区分5	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分4	分類できない
4	トルエン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分4	分類できない
5	メタノール	区分4	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分に該当しない	分類できない
6	イソブチルアルコール	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分4	分類できない
7	酢酸エチル	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分4	分類できない
8	酢酸イソブチル	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分4	分類できない
9	エチレングリコールモノールマルブチルエーテル	区分4	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分に該当しない	分類できない
10	ジメチルエーテル(DME)	分類できない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない (分類対象外)	区分に該当しない (分類対象外)
成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	皮膚腐食/刺激	眼損傷/眼刺激	呼吸器感作性	皮膚感作性	
1	アルキド樹脂	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	
2	キシレン	区分2	区分2A	分類できない	分類できない	
3	エチルベンゼン	区分3	区分2B	分類できない	分類できない	
4	トルエン	区分2	区分2B	分類できない	区分に該当しない	
5	メタノール	分類できない	区分2A-2B	分類できない	分類できない	
6	イソブチルアルコール	区分2	区分2A	分類できない	分類できない	
7	酢酸エチル	区分に該当しない	区分2B	分類できない	区分に該当しない	
8	酢酸イソブチル	区分3	区分2B	分類できない	区分に該当しない	
9	エチレングリコールモノールマルブチルエーテル	区分2	区分2A	分類できない	区分に該当しない	
10	ジメチルエーテル(DME)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	
成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性		

1	アルキド樹脂	分類できない	分類できない	分類できない
2	キシレン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分 1B
3	エチルベンゼン	区分に該当しない	区分 2	区分 1B
4	トルエン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分 1A
5	メタノール	区分に該当しない	分類できない	区分 1B
6	イソブチルアルコール	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
7	酢酸エチル	区分に該当しない	分類できない	分類できない
8	酢酸イソブチル	分類できない	分類できない	分類できない
9	エチレンジグリコールモノノルマルブチルエーテル	区分に該当しない	区分に該当しない	区分 2
10	ジメチルエーテル(DME)	分類できない	分類できない	分類できない
成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	特定標的臓器毒性(単回)	特定標的臓器毒性(反復)	誤えん有害性:
1	アルキド樹脂	分類できない	分類できない	分類できない
2	キシレン	区分 1(中枢神経系、呼吸器、腎臓、肝臓) 区分 3(麻酔作用)	区分 1(神経系、呼吸器)	区分 2
3	エチルベンゼン	区分 2(中枢神経系) 区分 3(気道刺激性)	分類できない	区分 1
4	トルエン	区分 1(中枢神経系) 区分 3(気道刺激性、麻酔作用)	区分 1(中枢神経系、腎臓、肝臓)	区分 1
5	メタノール	区分 1(中枢神経系、視覚器、全身毒性) 区分 3(気道刺激性、麻酔作用)	区分 1(中枢神経系、視覚器)	分類できない
6	イソブチルアルコール	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)	区分に該当しない	区分 2
7	酢酸エチル	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)	分類できない	分類できない
8	酢酸イソブチル	区分 3(気道刺激性)	分類できない	分類できない
9	エチレンジグリコールモノノルマルブチルエーテル	区分 3(気道刺激性)		分類できない
10	ジメチルエーテル(DME)	区分 3(麻酔作用)	分類できない	分類できない

## 12. 環境影響情報

生態毒性:	水生環境有害性 短期(急性) 毒性計算値を用い、【加算法】((毒性乗率×10×区分 1)+区分 2)の値が 25%以上のため、区分 2 とした。
	水生環境有害性 長期(慢性) 毒性計算値を用い、【加算法】((毒性乗率×100×区分 1)+(10×区分 2)+区分 3)の値が 25%以上のため、区分 3 とした。
残留性・分解性:	データなし
生体蓄積性:	データなし
土壌中の移動性:	データなし
オゾン層への有害性:	有用な情報がなく分類できない。

### ○ 各成分の環境影響情報

成分 番号	内 容 成 分 〔化学名又は慣用名〕	水生環境有害性		オゾン層への有害性
		短期(急性)	長期(慢性)	
1	アルキド樹脂	分類できない	分類できない	分類できない
2	キシレン	区分 2	区分 2	分類できない
3	エチルベンゼン	区分 1	区分に該当しない	分類できない
4	トルエン	区分 2	区分に該当しない	分類できない
5	メタノール	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
6	イソブチルアルコール	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
7	酢酸エチル	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
8	酢酸イソブチル	区分 3	区分に該当しない	分類できない
9	エチレンジグリコールモノノルマルブチルエーテル	区分 2	区分に該当しない	分類できない



10	ジメチルエーテル(DME)	分類できない	分類できない	分類できない
----	---------------	--------	--------	--------

### 13. 廃棄上の注意

#### 化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報:

- ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。
- ・ 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・ 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- ・ 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・ 廃容器の取り扱いの際、空容器に圧力を加えると破裂することがある。
- ・ 空容器は溶接、加熱、穴開け又は切断を行うと、爆発を伴って残留物が発火することがある。
- ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

海上輸送: IMOの規定に従う。

航空輸送: ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. (国連番号): 1950

Proper Shipping Name (品名): Aerosols (エアゾール)

Class (国連分類): 2.1

Packing Group (容器等級): ー

#### 輸送又は輸送手段に関する

##### 特別の安全対策:

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

重量物の上積みしない。

#### 国内規制がある場合の規制情報陸上輸送:

陸上輸送: 消防法等、該当法に定められた運送方法に従う。

海上輸送: 船舶安全法等、該当法に定められた運送方法に従う。

航空輸送: 航空法等、該当法に定められた運送方法に従う。

緊急時応急措置指針番号: 126

### 15. 適用法令

- ・ 消防法: 危険物 第4類 第一石油類 (非水溶性) 危険等級II
- ・ 労働安全衛生法: 施行令 第18条 (表示対象物質)  
施行令 第18条の2 (通知対象物質)  
施行令 別表第1 危険物 (引火性の物、可燃性ガス)  
有機溶剤中毒予防規則: 第二種有機溶剤  
特定化学物質障害予防規則: 第2類物質 エチルベンゼン
- ・ 毒物及び劇物取締法: 非該当
- ・ 船舶安全法: 高圧ガス、エアゾール  
(危険物船舶運送及び貯蔵規則 第3条 告示別表第1)
- ・ 航空法: 高圧ガス、エアゾール  
(航空法施行規則 第194条 告示別表第1)
- ・ 化学物質排出把握管理促進法: 第一種指定化学物質を含有する。  
(PRTR法)

### 16. その他の情報

参考文献: 1) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS 分類結果

- 2) JIS Z 7252:2019「GHSに基づく化学品の分類方法」
- 3) JIS Z 7253:2019「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 4) 許容濃度の勧告(2015)、日本産業衛生学会
- 5) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices、ACGIH(2015)
- 6) (株)タセト 社内資料 (原材料SDS)

---

#### 記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者に提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。